

場所 埼玉県さいたま市

面積 1.1ha

活動目的 ふるさと埼玉の身近な自然を残し、未来の子どもたちのために緑のトラスト保全第1号地を保全する。



サイト概要 さいたま市から川口市に流れる見沼代用水東縁に面する斜面林である。この斜面林は、県南地域に残された貴重な自然であり、用水などと一体となって特色ある景観をつくりだしている。見沼らしい景観を保っている場所の一つであるとともに、埼玉の原風景の一つであるといえる。なお、この斜面林のある区域の約300mにわたる用水路は、両岸や底をコンクリートにせず、江戸時代そのまま残されている。

- 土地利用の変遷** 埼玉県さいたま市緑区の中央部に位置し、江戸時代に作られた見沼代用水東縁に面する斜面林として、開発されずに元の姿をとどめていたことから、平成2,3年にさいたま緑のトラスト保全第1号地となった。以後ボランティアスタッフにより定期的・継続的に整備されている。
- サイト周辺の環境** 周辺は見沼田んぼとそれを取りまく見沼代用水、芝川、加田屋川、湿地、田んぼ、畑地、雑木林で作られる田園風景が広がる貴重な場所である。1260haある見沼田んぼの中で、唯一見沼の原風景が保たれ、生きものを育む場所である。
- アピールポイント** 首都圏から約25キロの場所であるが、オオタカなどの希少な動植物が生息し、生態系が守られていることにより環境教育の場や憩いの場となっている。ボランティアスタッフは、100年200年先の子供たちに貴重な自然を引き継いでいくために保全管理を行っている。見沼代用水沿いの遊歩道には20kmに及ぶ桜並木があり、自然を楽しむ憩いの場所である。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

見沼田んぼの用水沿いにある樹林地にはケヤキ、イヌシデ、ムクノキ、ハンノキ等の落葉広葉樹、シラカシ、シロダモ等の照葉樹が生育している。また、湿性の動植物とその希少種が確認できる。サイト内のビオトープは生きものたちの繁殖、休憩、水浴びの場としての機能を有している。

【主な植生】

樹木では、シラカシ、シロダモ、ヤブツバキ等の照葉樹、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、イヌシデ、コブシ、ハンノキ等の落葉広葉樹、低木としてウグイスカグラ、アオキ、竹類は、モウソウチク、ハチクが生育している。

【確認された主な動植物など】

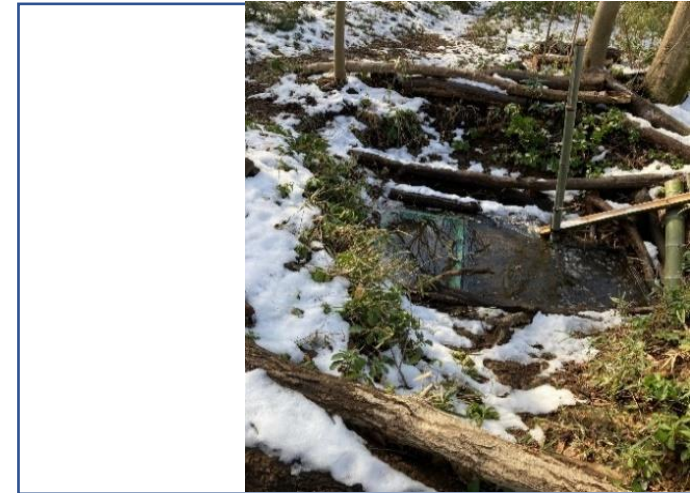
・ 植物

ハンゲショウ (*Saururus chinensis*)

・ 動物 (センサーカメラ)

オオタカ (*Accipiter gentilis*)

ニホンヤモリ (*Gekko japonicus*)



写真の説明 : 様々な動物が集まるビオトープ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

およそ0.2haの竹林エリアがあり、タケノコ掘り、竹の伐採体験のイベントを実施し県民が自然に触れ合う場となっている。また、1坪ほどのビオトープがあり、様々な動植物の生息・生育の場となっている。
落ち葉のためにカブトムシの幼虫が越冬している。

【主な植生】

- ・竹林エリア(モウソウチク、ウラシマソウ)
- ・ひろばエリア(ハチク)
- ・用水保護林エリア(シラカシ、ケヤキ、イヌシデ、スギ、ヒノキ、ウグイスカグラ)
- ・斜面林エリア(シラカシ、コナラ、ナルコユリ、フタリシズカ、ウバユリ)
- ・オオタカ保護エリア(ムクノキ、ケヤキ、ハンノキ、コブシ、ハンゲショウ、ジロボウエンゴサク)

【確認された主な動植物など】

確認された主な種は以下の通りである。

植物：アオダモ、アズマネザサ、ウグイスカグラ、ウラシマソウ、ウワミズザクラ、オオバギボウシ、オオバジャノヒゲ、ホンモンジスゲ、モウソウチク、ヤブマオ、カワラスゲ、チダケサシ、ノハラアザミ、ヒノキ、フジ

動物：エンマコオロギ、オオカマキリ、オオタカ、カブトムシ、キツネ、シジュウカラ、ジャコウアゲハ、タヌキ、ツミ、ニイニイゼミ、メジロヤスデ類、ムカデ類

菌類：キツネノロウソク



写真の説明：自然に親しむ会（自然観察会）の様子



写真の説明：ツミ（センサーカメラで撮影）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

水辺、用水路に接する区域の湿地、樹林地が一体となった空間になっており、希少種が確認されている。

【確認された希少種】

サイト内では、環境省レッドリストまたは埼玉県レッドリストに掲載された希少種として植物9種、鳥類12種、爬虫類3種、両生類1種、クモ目2種、軟体動物2種が確認されている。

【確認された希少種】

主な希少種

オオタカ (*Accipiter gentilis* 国・NT、県・VU 成鳥)



写真の説明：オオタカ（センサーカメラで撮影）

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

サイト内水場ビオトープでは冬鳥や夏鳥、哺乳類をセンサーカメラで記録している。ここでは、オオタカが採餌する場として利用されている。また、多くの動物によって利用されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><活動目的> ふるさと埼玉の身近な自然を残し、100年、200年先の未来の子どもたちのために緑のトラスト保全第1号地を保全する。</p> <p><活動内容> サイト内を「竹林エリア」「ひろばエリア」「用水保護林エリア」「斜面林エリア」「オオタカ保護エリア」の5エリアに分け、現状に合わせた保全活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物保護：該当の植物に目印をつけ管理を行っている。 ・動物保護：繁殖時期に立ち入りを禁止し、人の声や作業音を抑えるなど希少動物の生育環境に留意している。動物の水飲み場としてビオトープを作り保全している。 <p><実施体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラスト1号地ボランティアスタッフによる保全活動及び臨時作業 動植物の記録、鳥の巣箱、エコスタック、外来種抜き、希少植物の保護、竹を利用した小屋作り、伐採木の処理作業等 ・鳥類調査 ・動植物調査 NPO法人エコ.エコ との協働 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の活動計画書の作成 ・毎月の活動計画書の作成 ・年3回のトラスト全14号地の代表が集まるボランティアスタッフ連絡会議での情報共有 	<p>【モニタリング対象】 トラスト1号地ボランティア：哺乳類・鳥類・昆虫・カエル類・植物及び植生の変化等 モニ1000：哺乳類、チョウ</p> <p>【モニタリング場所】 ・緑のトラスト保全第1号地「見沼田圃周辺斜面林」地内及びその周辺地帯</p> <p>【モニタリング手法】 ルートセンサス：哺乳類、鳥類、昆虫、カエル類、植物及び植生の変化等 定点カメラ：哺乳類、鳥類等 モニ1000による調査：哺乳類（センサーカメラ）、チョウ(ラインセンサス)</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 月2回の保全活動及び月1回の臨時作業 月1回の動植物調査 月1回の鳥類調査</p> <p>【モニタリング実施体制】 トラスト1号地ボランティアによる調査 モニタリングサイト1000里地調査（上記モニ1000）による調査 協力団体「NPO法人エコ.エコ」との動植物調査等の情報交換</p>